

# 売れっコ占い師が作った専門家集団は、 アイデアと行動力で大活躍中!

## イベントプロデュースもこなす マルチな営業姿勢

「占いは信じるものではなく、活用する  
ものです」

モラキッパリと言いつけるのは、名古屋にある「古い玉手箱」社の竹村豊希子社長だ。

同社は女性28名、男性2名という占い師から成る古い師集団であり、社長である竹村さんは名古屋財界で引つ張りダコの売れっコ占い師なのである。

冒頭の言葉にもあるように、古う働も占われる側も、古いを活用してステップアップを図っていくことが、今のような混沌とした世の中における古いの正しい認識論ということなのかもしれない。

「中部地方を中心に年間約100回は講演をしますが、最近では求められるテーマも変わってきました。以前は人相学というようなテーマが多かったのですが、近頃は「易から見た成功から没落まで」とい



「運を呼ぶには、必ず代価」という著作を持つ

ったリアリティのあるテーマが多くなっています」

社長サンたちの研究会や企業の後継者の養成講座といった場での講演が大部分だが、時たま教育委員会といったおカタいところからも声がかかることもあるという。古い師の活躍の場は想像以上に広いことを実感させられる。

古いの玉手箱社では、歩く企画室、なるPR部門を設け、ビジネスチャンス

竹村さんの古いを武器とした営業手腕はなかなかのもので、イベントの企画プロデュースから、常設古いコーナーの経営、財界人相手の講演会、雑誌の古いコーナーの監修、そして個人鑑定と、まさに八面六臂の活躍ぶり。

「古いをひとつのメディアとしてとらえ、様々な情報サービスを展開していきたい」と考えています。

竹村さんの一言一句は実に明快である。古いを神祕のベールで包んだりはいしない。

拡大に努めているが、昨年7月8日、9日18日に開催された「ぎふ中部未来博」では、世界の古い館（出版企業は十六銀行と岐阜新聞社）というパビリオンのプロデュースを担当した。

「シナリオ書きから舞台演出や音楽まで、すべて自分たちでやりましたが、評判はとてよまかつたみたいです。人気投票では20近いパビリオンの中で1位から2位になることができたんです」

と笑う竹村さんだが、古い師が古いだけをやっていたらいいという時代は、もはや終わりを告げるのだろうか？

「私自身、あくまでも本業は古い師ですから、個人鑑定をやめようとは思いません。ただ、プロデューサー的なセンスも持たなければビジネスは広がっていきなれないというところは言えるでしょうね」

## 月 取100万円を超える古い師も いるほどの人気が

これだけ順風満帆ぶりを紹介したからには、その採算性が気になるところだが、そのあたりを竹村さんに聞いてみた。

「かなりいいですよ。スタッフの古い師でも、人気の高い人は歩合によって月収100万円を超えますからね」

現在、竹村さん以外のスタッフはローテーションを組んで名古屋市内3カ所にある古いコーナーで鑑定を行っているが、どの店も人気は上々。鑑定料を1000円から2000円に上げても客がまったく減らなかったというから、なんともうらやましい話である。

古いビジネスは静かに、そして、したたかに力をつけているのである。



名古屋市内にある古いコーナー「古い玉手箱」の店内の様子。鑑定料を1000円から2000円に上げても客がまったく減らなかったというから、なんともうらやましい話である。

